

2022年度業務実績報告書

提出日2023年1月19日

1. 職名・氏名 准教授・篠原秀文

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 植物生化学、授与機関 名古屋大学、授与年 2009
年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 分子生物学Ⅱ（2単位）・3年時 分子生物学Ⅲ（2単位）・3年時 分子生物学実験（2単位）（分担）・3年時 科学英語Ⅰ（2単位）（分担）・2年時 生物資源学概論（2単位）（分担）・2年時
②内容・ねらい 分子生物学の基礎的知識および思考を身につけるため。 科学を学ぶために必要な英語を身につけるため。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・毎回の講義用スライドを資料として印刷配布し、復習しやすくした。また各章の終了時にまとめと演習を行う時間を設けた。 ・動画資料や YouTube を講義に取り入れることで理解度を上げる工夫をした。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり） 1. Ogawa-Ohnishi M., Yamashita T., Kakita M., Nakayama T., Ohkubo Y., Hayashi Y., Yamashita Y., Nomura T., Noda S., <u>Shinohara H.</u> , Matsubayashi Y. (2022) Peptide ligand-mediated trade-off between plant growth and stress response Science 378, 175-180 (Oct. 2022)	【1本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等 *1. ペプチドホルモンと受容体のペアが担う植物の多様な細胞間コミュニケーション, 金沢大学・理学談話会（生命理工）（2022年6月）, <u>篠原秀文</u> （招待講演） *2 Marchantia polymorpha -my lovable hater-, 第55回日本発生生物学会（2022年6月）, <u>篠原秀文</u> （招待講演） *3 ペプチドホルモンの多様な機能によるゼニゴケのかたちづくり, 日本植物学会第86会大会（2022年9月）, <u>篠原秀文</u> （招待講演） *4 植物のペプチドホルモンの研究～これまでとこれから～, 学術変革領域研究 B「植物超個体の覚醒」研究交流会・若手の会（2022年11月）, <u>篠原秀文</u> （招待講演）	【4件】
⑤その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 科研費・基盤（C）、科研費・新学術研究領域（公募研究）、武田科学振興財団・ライフサイエンス研究助成 【学内】 戦略的課題研究推進支援事業	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
日本植物生理学会 庶務幹事	

